

明日で一学期が終わります。

<感謝と御礼>

この一学期、保護者の皆様、地域の皆様には、大変にお世話になりました。各学年における教育活動としては、8月5日(水)・6日(木)に実施いたします5年生の野外体験教室がありますが、先ずは、明日の終業式の日で、一学期の取組は終わります。

子供たちが楽しみにしている夏休みが、無事故で、充実した、楽しい日々になることを心から願っています。先ずは、この一学期の様々な取組に対してのご理解とご協力に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

<2学期に向けて>

No.6でお伝えしたように、多くの場面で子供たちの成長が感じられることが多い1学期でした。もちろん、令和8年度の始まりの一学期ですので、全ての成長が集約されたわけではありませんが、「初めが肝心」であり、「始めよければ終わりよし」という言葉があるように、スタートの1学期の姿は、次の2学期の土台としていくことが大切です。



私たち教職員も、この一学期に取り組んだことをしっかりと振り返り、反省すべきところは反省し、継続するところは継続させながら、夏休み明けの2学期に向けて準備をしままいります。また、保護者の皆様から様々にご相談いただいたことも、引き続き大切にしながら、よりよい六小にしままいりますので、何かございましたら担任はもちろんのこと、学校までお知らせください。

子供たち同様に、私たち教職員も夏休みを楽しくも充実させ、休める時にはしっかりと休み、頑張るときにはしっかりと頑張れるようにしままいります。8月10日(月)からの休暇促進週間においては、日直以外は、不在者が多くなりますので、ご理解の程、よろしくお願いいたします。

「笑顔寄席」を実施します！

子供たちの各年度の一年間の頑張りに応えていきたいという思いを込めて、これまで、笑顔と学びのプロジェクトという東京都のプログラムを活用して、「笑顔寄席(えがおよせ)」というプログラムに応募してきました。昨年度も挑戦をしていましたが、残念ながら実施することができませんでした。今年度は、昨年度からの様々な方々のご尽力により、お陰様で実施校としての決定をいただきました。本当に有難く、嬉しい思いです。

「笑顔寄席」の内容としては、一流の演者をお呼びして、演者と一緒に子供たちに体験的に取り組んでもらったり、歌を聞いたり、歌ったり、踊ったりと、子供たちを笑顔にしていこうというステージです。とても盛り上がるステージ構成になっており、都内でも多くの小学校で実施されています。国立市内小学校でも、これまで七小や一小で実施しています。私も七小で体験済みです。

ただし、申し訳ありませんが、参加できるのは教職員と子供たちです。保護者の皆様には、子供たちからステージの様子を聞いていただくことでご容赦ください。実施日については、現在、調整中ではありますが、予定としては、来年の令和9年2月17日(水)を実施日としています。

これから、詳細を詰めてまいります。2学期以降の校長室便りで状況をお伝えしていこうと

思います。ご承知おきください。

児童を主体とした授業

私たち教員は、研究と修養を常に求められます。授業をする限りは、当然と言えば当然ではありますが、ある意味で、毎日の授業実践が、そのまま研究と修養の場にもなっているところです。

先日、本校では図工の専門性を高めるための研究会において、本校図工専科による研究授業がありました。また、新規採用教員の研修会のための模範授業として、6年の学級担任による道徳の授業がありました。

また、以前六小でも、国立市教育委員会の研究奨励校として算数の研究発表会を行い、教員の授業力や指導力を高める取組を行いました。この先、六小で新しく研究発表会を行うことも視野に入ってきていますので、今年度から教員の授業力や指導力について着実に力を付けていけるよう、計画的に意図的に進めているところです。



今年度、本校の経営方針の中に、ファシリテーター力の向上ということを位置付けていますが、これも、授業力や指導力を高める上で大切にしたい取組です。子供たちを主体とした授業をするには、このファシリテーター力が必要です。

それでは、教員のファシリテーター力とは何かというと、簡単に言うと、教え込みの授業から、子供たちがアクティブに授業の中で活動することを認め、支援し、時にはアドバイスし、子供のもつ力を最大限に発揮させていく教員側の力と言えます。



言葉で言う程、簡単ではありませんが、多くの子供たちが主体的に積極的に学習活動を楽しみながら学べるような学習活動を多くしていけるよう、私たち教員の研究と修養のテーマの1つとして取り組んでいるところです。

取組の結果や成果において、よりよい結果や成果が表れるまでには、小学校という教育現場においては、時間が必要なところです。1学期を土台とした2学期を進め、3学期には、1・2学期を土台として更に高めていく。このサイクルを繰り返しながら、六小の発展を図ってまいります。

【校長のつぶやき】

この間、嬉しいことがありました。私が校長として関わった学校の卒業生と懇談をする機会があり（こんな機会もなかなかないのですが）、その時の話の中で、その卒業生が卒業式の時の私の祝辞を聞いて「泣いてしまった。」というのです。私としては、ちょっとびっくりするとともに、本当に感激をしました。

最近の卒業式では、お祝いの話をするのは、コロナ禍以降、おおむね校長だけのところが多いと思います。それだけに、私は、卒業生のことを思い浮かべながら、様々に考え、様々に検討して、話す内容を決めて祝辞にしていけます。

自分の経験や体験を基に、祝辞として形づけることが多いのですが、その話や内容を聞いて、涙を流してくれた人がいるとは、あまり考えたことはありませんでした。本当に嬉しく、教員冥利に尽きるなと感激しました。こんな素敵な言葉を素直に話してくれたことに感謝するとともに、教員として関わった子供の成長した姿は、教員の醍醐味の1つであり、これまでの様々な苦労が、一気に吹き飛んだ瞬間にもなりました。これからも、多くの子供たちと関わることをと思いますが、少しでも思いの伝わる言葉をかけ続けたいと思った出来事でした。